

十勝岳

○地磁気全磁力変化

2008年の観測開始以降、62-2火口付近の深さ数100mを中心とする消磁傾向が継続している。この変化は62-2火口直下の蓄熱を示唆している。また、T0FおよびT0Eの変化傾向から考えると、大正火口噴気域のごく浅部でも消磁が進行している可能性がある。ただし、2012年7月の大正火口が明るく見える現象に伴う急変は認められない。なお、62-2火口の南壁付近の測量結果には、火口壁の崩落・浸食による局所的な磁場変化が含まれている可能性が高い。

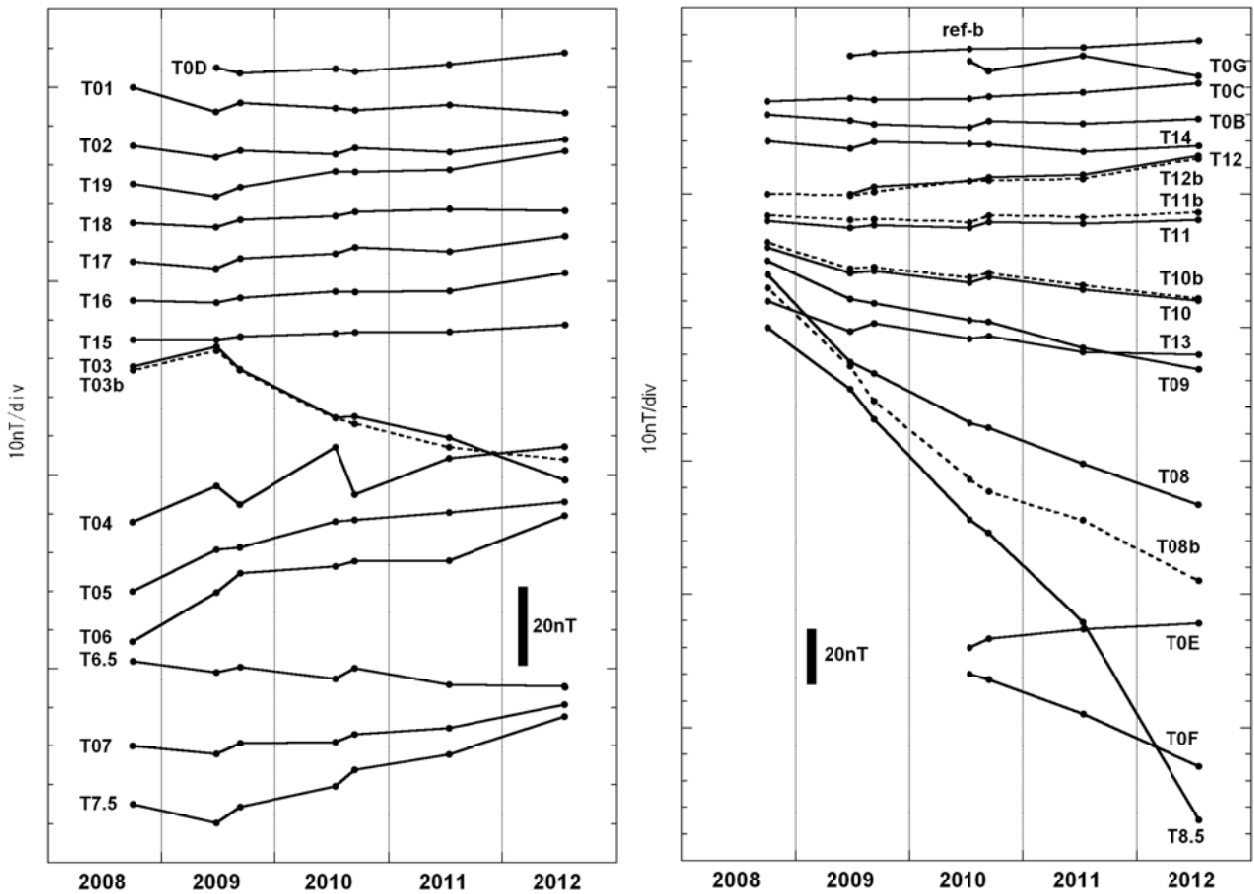


図1 繰り返し磁気測量に基づく十勝岳の全磁力変化（参照点REFとの単純差）。磁気点の分布は図2に示す。点線は補助点の変化を示す。最新の測量は2012年7月18～19日に実施。

(橋本)

十勝岳

十勝岳

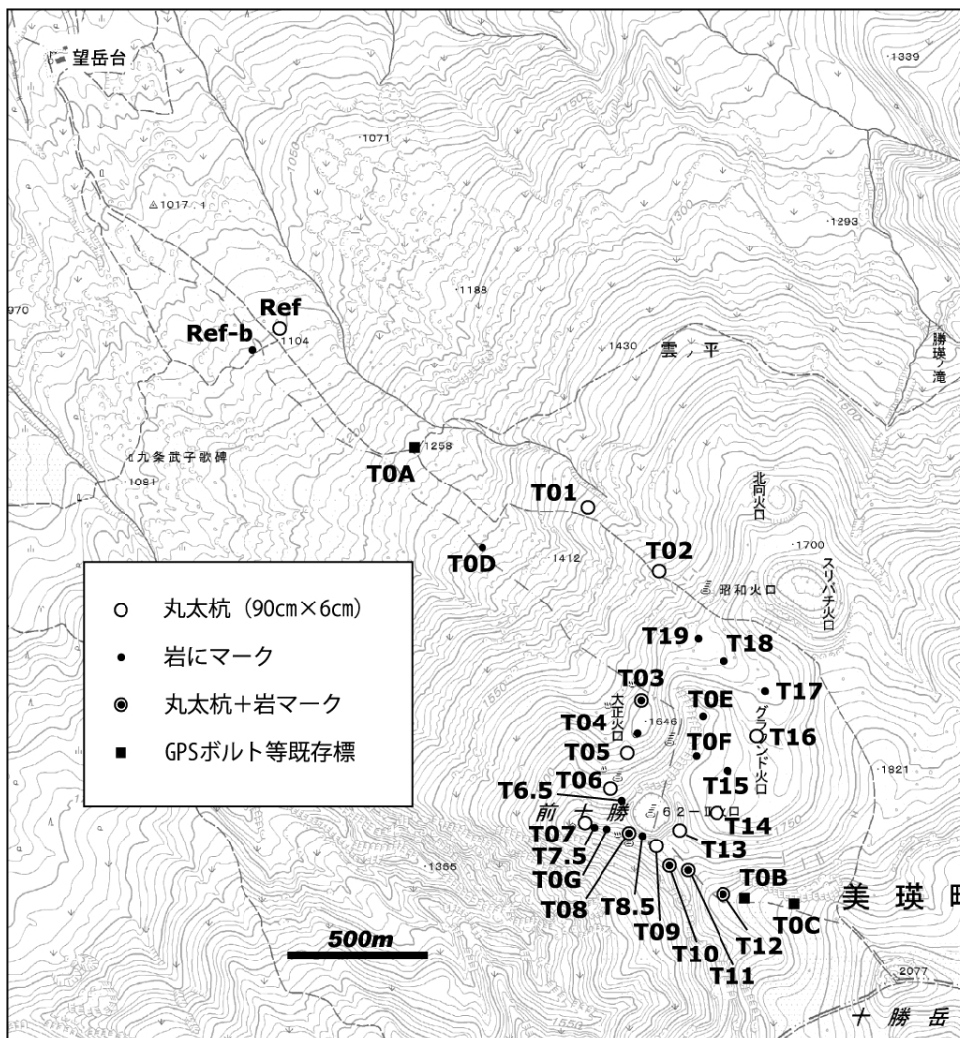


図2 繰り返し磁気点の分布. 本図の作成には、国土地理院のオンライン地図画像を使用した.